

聖徳大学言語文化研究所主催 国際比較言語文化論シンポジウム

味覚を表す語彙と表現

日本語・英語・フランス語・中国語・韓国語

日時

平成26年2月8日(土)
13:00~15:00

参加費
無料

会場

聖徳大学10号館14階

千葉県松戸市松戸1169 JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

定員

80名(事前申込不要)

後援

松戸市教育委員会、市川市教育委員会、柏市教育委員会、取手市教育委員会

パネラー

林 史典

(聖徳大学言語文化研究所長)

ピーター ヴィンセント

(聖徳大学語学教育センター教授)

クリスティアン ブティエ

(聖徳大学人文学部英米文化学科准教授)

李 哲権

(聖徳大学文学部文学科准教授)

森 貞美

(聖徳大学児童学部児童学科准教授)

内容

昨年末、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されましたね。食は文化。伝統的な日本の食文化が世界に認められ、賞賛されるのは嬉しいことです。これは日本人が食に美味と視覚美、それに健康を追求してきた結果でしょう。

さて、その味を私たちはどのように表現しますか? 「おいしい」「まづい」、それから「あまい」「からい」「すっぱい」「にがい」、また「まろやか(な味わい)」「こってり」「さっぱり」、さらには「シャキシャキ」「トロリ」「ネットリ」「プリプリ」のような歯触り・舌触りの表現、「香ばしい」「風味がある」など香りの表現まで、さまざまなことばを用います。人はあらゆる感覚で味を感じているのですね。それにしても、微妙な味わいを表現するにはことばが足りないと思いませんか? 外国語ではそれをどのように言い表しているのでしょうか。

このシンポジウムは、5人のネイティブによる5言語の比較を通じてその内奥にある感覚や嗜好、思想・習慣を明らかにしようとする試みの2回目です。今回は味覚語彙・味覚表現について考えます。

お問い合わせ ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

電話: 047-365-1111 (大代表)

ホームページ: <http://www.seitoku.ac.jp/kenkyujyo/gengo/>

